

第1号

地域・家庭・学校をつなげる新聞!

熊谷ひみつ新聞

Kumagaya Secret Newspaper

社団法人 熊谷青年会議所
熊谷市宮町2-39 熊谷商工会館内
電話 048-524-0440
FAX 048-524-0519



発行 熊谷市 熊谷市教育委員会 熊谷商工会議所
印刷 株式会社ピーアイビー 熊谷市筑波1-157-2 電話 048-524-1463

特集

熊谷の歴史を探る 1945年8月14日 熊谷大空襲

熊谷市長インタビュー	1
市長の好きな食べ物	2
市長の趣味	3
ウォーキングの勧め	4
熊谷の歴史を探る	5

熊谷市長インタビュー 知られざる秘密!!

市長を目指したのは小学生のころだった!!



何で市長になったのか?
お父さんの影響で小さなころから興味があり、政治に携わることにより世の中をよくしたいと思ったからです。
小学校の時から市長になりたかったのですが、市長という夢に向かって努力をしました。その時その時にどう自分になれるよいかという事を常に考えていました。市長になるためには勉強も出来なければいけないので、必死に勉強をしたのです。
学校を卒業してからも、熊谷の事をよく知っていなければなりません。熊谷の企業で働き、真面目に仕事をしながら、熊谷の様々な部分を見ていきました。この世で輝いている人は努力しているのです。

市長のお仕事

市長は前から問題になっていた事(難しい言葉で言うと懸案事項)について話し合いをしたり、定期的に行われる会議に出席したりしています。
また、熊谷市だけでなく、他の町の行事に出席したり熊谷の為にやる事を見つけるためにいろいろな所に出かけています。

千里の道も一歩から?

この言葉は、大きな事を始めるときには、まずは一歩ずつ始めるのがよいという意味です。気の遠くなるような千里の道のりも、小さな一歩一歩の積み重ねでしか到達出来ないのです。その為には、最初の一歩を踏み出さなければ、千里先の目的地は無いという意味もあります。次の一歩、また、次の一歩と、常に(毎日)、少しずつでも、積み重ねていかなければ、目的を達成できませんから、途中であきらめることなく、長く続けることが大切なのです。



熊谷市長 富岡 清氏

写真提供: 熊谷市

市長からのメッセージ
今年から小学校にはエアコンが付きます。皆さんがすごしやすいように、出来る事はします。是非、教室の中、休み時間、放課後、友達と仲良くすごしてください。話をきいただけではわからない事もあります。実際やってみないとわからない事も多いです。市長になってみたい人は頑張ってください。出来る事は応援します。是非、熊谷を良くしていきましょう。

ウォーキングの勧めスポット



- 熊谷の町をいろいろ親子で探索してください。
- 1 荒川土手ジョギングコース
 - 2 さくら運動公園のジョギングコース
 - 3 別府沼公園のウォーキングコース
 - 4 伊勢町 ふれあい公園ウォーキングコース
 - 5 スポーツ文化公園

3ページ



熊谷の警察官

2ページ



ホテルってどんな生き物?

市長の好きな食べ物

- ・おそば
- ・揚げ物
- ・お肉

市長の趣味

- ・映画を見ること
- ・スイミング

実録 熊谷警察24時

くまがやの警察官!




警察署ってどんな仕事?
熊谷市の交通の要所に位置する熊谷警察署。普段は大勢の警察官が勤務されています。その中には署長さんから、白バイを運転する人、警察で事務をこなす人など、たくさんの方がいるのです。そんな熊谷警察でインタビューをしました。

警察官はどんなふうにお働いているの?
警察署の中では、2つのパターンで働いている人がいます。まずは、朝出勤してきて、夕方帰り、土日に休む人。もう一つは朝出勤して24時間働いて、次の日の朝帰る人。とっても大変だけど、まちを悪い人から守り、事件事故を解決するために働いてくれています。24時間の勤務は、とっても疲れるけど、このまちの安全安心のため、警察官としての役割を果たしてきています。

深夜にコンビニ
深夜でも警察官はパトロールしてくれています。コンビニ強盗が増えているので、コンビニ強盗を防ぐために、警察官もコンビニに寄っていいことになりました。警察官は犯罪の防止のためにコンビニに入ってパトロールしてくれているのです。

深夜にコンビニ
深夜でも警察官はパトロールしてくれています。コンビニ強盗が増えているので、コンビニ強盗を防ぐために、警察官もコンビニに寄っていいことになりました。警察官は犯罪の防止のためにコンビニに入ってパトロールしてくれているのです。

なんで、24時間も働くの?
警察官はパトロールする時間や捜査をする時間をできるだけ長くするために、24時間続けて働いています。交代の回数が増えるとパトロールに出られない時間が増えて、まちが危険になるかもしれません。そのために、とっても大変だけど24時間続けて働いています。



登校の時間は気をつけて!
みんなの登校の時間、下校の時間は事件や事故が多い時間です。たくさんの方が外に出て動く時間で、いつもより注意が必要!車や自転車に気をつけて、事故のない日はありません。事故が無くなるように、警察官も頑張っています。みなさんも十分に注意してください。

警察官はどんな思いで働いているの?
警察官は、まちのみんなの安全と安心を願って、日夜働いてくれています。犯罪を予防して、犯罪が起きる前に止める。悪いことをしている人がいないか、いつも守ってあげたいです。犯罪が起きてしまったら、犯人を捕まえて、検事さんに調べてもらい、裁判官に裁判をしてもらいます。そして、罪をつぐなうって、良い人間になって世の中に戻ってきて欲しいと思っています。

犯罪をへらそう!
犯罪率の低下!
埼玉県は、人口が多い割に警察官の人数が他の県に比べて少ない時期もありました。だけど、もっと犯罪を減らすために、警察官を増員して犯罪をより減らしてきました。警察官ひとりひとりの力と、その人数が増えて以前よりもさらにしっかりと、このまちを守ってくれているのです。

みんなで守ろう、自分たちのまちを!
警察官は昼も夜も一生懸命に私たちの街を守ってくれています。でも、テレビドラマのように事件や

事故は1時間では解決しません。証拠を集めたり、資料や書類をつくったり、とても地道な作業の積み重ねで、事件の解決に結びつけることができるのです。それはこのまちの皆さんの協力で成り立っていることもたくさんあります。皆さんがこのまちを良くしようと思つて、ルールを守り、良い行動をすることで、時には警察に協力することで、警察官の皆さんと一緒にこのまちを良くしていく事ができます。みんなで自分たちのまちを、良くしていきましょう!



警察官の持ち物

お巡りさんは、いろいろな持ち物がついたベルトをしています。



警察手帳
警察官であることを証明します。

無線機
警察署やパトカー、警察官との連絡に使用します。

警笛
合図をするときに使います。

手錠
犯人が逃げたり暴れたりしないようにします。

警棒・けん銃
犯人を捕まえたり、みんなを危険から守るために使います。

警棒は、のぼしたりちぢめたりすることができます。

熊谷の歴史を探る

Exploring the history of Kumagaya

1945年8月14日 熊谷大空襲



星川 戦災者慰霊之女神

67年前、熊谷は焼け野原だった

みなさんは67年前の夏、熊谷の街で、なにがあったのかを知っていますか。1945年(昭和20年)8月14日、夜の出来事でした。午後11時30分から翌15日の未明にかけて、房総半島(千葉県)の南方より侵入してきたアメリカ軍のB29が熊谷市の上空に飛来しました。この空襲によって、夜中にもかかわらず真昼のような明るさとなり、8000発をこえり、焼夷弾によって熊谷市の中心部(市街地)の70%以上は火の海と化してしまいました。火は15日の午後5時ごろになり、ようやく消えてきましたが燃え残りの火が数日間くすぶっていたといえます。

川原も炎でおおわれ、川の水まで熱湯のように変わり、星川に避難した人たちは、火を避けて川に飛び込んだにもかかわらず、100名近い人たちが犠牲になりました。そして、この空襲による死者234人(市街地のみの)の半数近くがこの星川で犠牲になったといわれています。

熊谷西小学校も被害に

また、この空襲で熊谷西国民学校現在の熊谷西小学校、当時は現在の市役所の場所にあったと埼玉立熊谷高等女学校(現在の熊谷女子高等学校)が被害にあつて焼失しています。埼玉県下で空襲によって焼失した公立学校は、この二校のみです。この空襲で第3・第4・第5校舎、特別校舎の4棟53教室が焼け落ちてしまいました。かけつた職員たちが消火活動を行い、渡り廊下を破壊するなどによって、かろうじて第1校舎は類焼を逃れることができましたが、校舎類は焼失してしまいました。2学期からは残った校舎を本部に、東小学校、石原小学校、熊谷小と4ヶ所に分散して授業が再開されました。焼け跡の整理が続き、西校母の会が結成され、「西校復興資金募金運動」を行い、少しずつ机やイスなどが整えられていきました。昭和22年4月1日には、現在の西小学校の地に移転し、平屋建てで5棟20教室の仮校舎が建築されました。また、校舎のほかにも熊谷市役所、熊谷市公会堂、熊谷郵便局、熊谷地方裁判所などの公共建築物も焼失し、鎌倉町にある石上寺をはじめとする6寺院

写真で比べる! 熊谷市の昔と今



同じ場所から、昔の写真と今の写真を比べて熊谷市の歴史の変化を比較してみよう!!

写真提供: 中村写真館

復興する熊谷

も焼失しました。当時星川に住んでいて、空襲の被害にあわれた藤岡豊子さんに当時の状況と復興の様子を聞きました。豊子さんは当時22歳で、結婚4ヶ月の新婦でした。この空襲で夫の父親を亡くしてあります。戦直後は物資不足のなか大変な生活をしていました。夫の久義さんのついでに糊口をしのいでいました。そのような気持ちで戦後の復興にあつていったのかと聞くと、国から何かをしてもらおうとは全く考えなかった。自分で何とかしなければ

当時の疑問に感じたことをお答えします!

戦争中は何を食べていたの?

野菜やお米を作る農家の人も戦争に参加してしまつたので、お米や野菜が取れる量も少なくなつてしまい、比較的手に入りやすかつたお芋やじゃがいも、大豆などをご飯に混ぜて食べていました。あとは塩だけで味付けした汁に小麦粉を水で溶いて練つたものと、野菜の切れ端をいれた「すいとん」を作つて食べていました。

配給って何?

横に書いてある通り食べ物の量が限られていたから国が残りの量を管理して、皆に配っていました。お米は一日に一人2合、3合、これだけでも足りないのに終戦間際には2合1勺になつてしまいました。

調べてほしい ひみつ大募集

地元熊谷を調べてほしい「ひみつ」を募集しています。ハガキに調べてほしい内容を書いて下記住所にお送りください。

〒360-0041 熊谷市宮町2-39 熊谷商工会館内
熊谷ひみつ新聞「ひみつ大募集」係
社団法人 熊谷青年会議所

戦争中の写真は どうやってとっていたの?

従軍記者という人達が兵隊さん達と一緒に行動して写真を撮っていたそうです。従軍記者の人達は、戦闘はしないで記録係として活動しました。

ばという気持ちが強かつた」と語りました。しかし、気持ちだけ「やらなくちゃ」と思つても、実際にできるのかどうかはわかりません。そのことを聞くと「当時は若かつたし、なんとかなるさ」と楽観的だつていました。「私の母は大変だつたといいますが、そのお蔭で我慢することができた」と語りました。そのことが強く生きてゆく原動力になつたのではないのでしょうか。当時は近所付き合いが今よりも濃密で、自然とコミュニケーションをとっていました。なぜ現代と違い、昔は濃密な関係を保つことができたのでしょうか。

なんで勉強しなきゃいけないの?

みなさまこんにちは。私は佐谷田小学校出身です。熊谷で育つて、今は全国各地や世界のいろんな国へ行って、いろいろな人達と一緒に仕事をしています。毎日毎日、いろいろな問題が起つて、困っている人達がいまふも無い、生活に困っている人達が行んでいる地域へ行く事もありません。ご飯もお腹いっぱい食べられない。学校で使う鉛筆も買えない。家の手伝いをしなければいけないから、学校へも行けない。皆さんと年が同じ年の男子の子や女の子が、そんな悩みを持って生活している地域もあります。そうした国へ行くたびに、もっと子どもの頃から一生懸命勉強しているいろいろなことを知つてあげば、今よりもっとたくさんの困っている人達の役にたつたかもしれないと思ひます。勉強は自分の為でなく、吸取する事で、世の中の役に立つ為にするのだ、と大人になつてからしみじみ思ひます。今の時点では解決出来なくても、皆さんも自分のことだけでなく、皆にとつて今日よりも明日をより良い世の中にしてと毎日考へて行動していけば、きっと素晴らしい仲間を救うことが出来ると思うのです。だから皆さんも面倒と思わずに、たくさん勉強してもらえたらと思います。大人になつてから、きっと誰かのことを幸せに出来ることになつたり、熊谷からそうした人達がたくさん世の中に出て行くことを、おじさんは願っています。